

CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	今出川北キャンパス新棟	階数	地下1F、地上3F
建設地	京都府京都市上京区	構造	RC造
用途地域	第2種中高層住居専用地域、第2種	平均居住人員	1,050 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	1,600 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年12月 予定	評価の実施日	2010年12月2日
敷地面積	7,757 m ²	作成者	
建築面積	3,785 m ²	確認日	
延床面積	16,504 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 4.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.9

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
東西を貫く広いサウカガーデンを中央に配置し、それを挟んで南北に棟を立ち上げた分棟構成。西側主要通り～東側まで緑が連携し、通りと建物を一体化する。これにより十分な採光と通風が確保でき、サウカガーデンが『風の谷の木もれ陽』を演出する場となる。設計コンセプトは大きく5つ。①歴史的外観デザイン(建築物の環境負荷低減性)、②今出川キャンパスの原風景の創出、③発信・交流を促す場の創出、④環境建築を肌で感じられる場の創出、⑤環境共生キャンパスの創出である。	既存建物の解体に伴い発生する廃棄物等は、『資源の有効な利用の促進に関する法律』に基づき、可能な限り有効利用に努めている。	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
一般教室や研究室は、音環境やシックハウスにも十分に配慮した設計とし、東西に長い中廊下に対しては、中間部に光ダクトを設置することで明るさを演出し、それと共に各室の出入口上部に欄間を設けることで、より一層の明るさを確保している。	充分な階高、充分な天井高を確保し、設備のメンテナンス及び更新に配慮した計画としている。また、耐震性の確保と耐久性の高い仕上材、機器等を選定しているほか、利用円滑化基準を満たす設計をするだけでなく、自主的に誘導サインの設置など、積極的に誘導している。	設備機器が外部より直接視認できないように配慮すると共に、同志社大学の歴史的外観デザインを継承する建物と調和した計画としている。また緑溢れる環境共生キャンパスの実現に寄与する植栽計画と、それを最大限生かしている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
①太陽光発電、②屋上緑化、③雨水の植栽灌水利用、④サウカガーデンを活かした自然通風、⑤光ダクトによる屋光利用、⑥断熱性能の高い材料の選定、⑦ペアガラスの採用、⑧オール電化空調の採用、⑨空調対象室には全熱交換型換気扇の設置⑩LED照明など高効率機器の採用、⑪	①躯体のコンクリートの強度F _q =30N/mm ² 、被り厚法定+10mm②仕上材・設備機器・ステンレス給水管・配管及び植栽等、長寿命化を考慮した材料を選定③リサイクル材使用材料を採用④エコマーク取得材料の採用など、『長寿命化・エコマテリアル』に寄与できる計画としている。	周辺の環境を活かした外構計画としている他、雨水流出抑制を配慮した設計をしている。また施設利用者のための適切な量の駐輪スペース、駐車スペースを確保し、利便性の配慮と共に渋滞や路駐を発生させない計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される